

2016 年未来基金プログラム 自己紹介・プログラムの紹介

神戸大学 2 回生 宮津 隆太

神戸大学経営学部 2 回生の宮津隆太といます。

今年の夏、CODE 未来基金を使わせていただくにあたって「僕が CODE と出会ったきっかけ」「なぜ僕はフィリピンでフィールドワークがしたいのか」「フィリピンのフィールドワークで何がしたいのか」について話させていただきます。

【CODE との出会い】

僕は中学、高校と陸上部に所属しており、毎日走ることしか頭になく、将来についてもなんとなく大学に入って就職するんだろうな〜くらいにしか考えていませんでした。

そんな僕でしたが、高校 3 年のときにはじめて将来について考える出来事がありました。僕の学校では毎年社会人講演会が開かれ、様々な業種の方が講演をしてくださるのですが、その年はスーダンで医療活動に従事されている NGO 職員の方が来てくださいました。

毎年、ただ退屈でしかない時間だったのですが、この年だけは違いました。その方はとても楽しそうで、自分の仕事に誇りをもっているように感じられ、お話を聞いているうちに、自分は世界中で苦しんでいる人に笑顔を届けられるようなキャリアを踏みたい、多分、それが自分の使命だ、と初めて心の底から思いました。

その思いを持ったまま大学に入った僕は、国際支援系のサークルに入ろうと思い、海外インターンシップ事業を運営する学生 NPO 団体に入会しました。そこの先輩に CODE の「食と国際協力」というイベントに誘われ、参加したのが僕の CODE との最初の出会いです。その後、「第 2 回日中 NGO ボランティア研修」にも参加させていただきました。それらを通して知った「最後の 1 人まで」という考え方には僕も非常に共感できたとし、ボランティアは「現地の方にしてあげる」ものではなく「現地の人を支える」ものである、という考え方を学べたのも僕にとってとても大きな経験でした。

【なぜフィリピンでフィールドワークがしたいのか】

大学に入って、社会問題について本やネットを調べたり、いろいろな人から話を聞いたりはしたのですが、やはり現地の人々が普段どのように、何を感じて、何を考えて生きているのかは自分が直接行って、目で見て、肌で感じなければならぬ、と強く感じるようになりました。

そう思っていた時に、CODE の未来基金のお話を聞きました。

僕は、貧困問題や 1 次産業に関する問題に関心があったので、フィリピンのバンダヤン島における台風被害にあった漁村における支援活動にとっても興味が湧きました。そこで人々がどんなことを思い、暮らしているのか、その声に NGO の方はどのように答えているのか、それを学ばせていただきたいと思い未来基金に応募させていただきました。

【フィリピンのフィールドワークで何がしたいのか】

この8日間で、「現地の人々がどのように、何を考えて、何を感じて生きているのか」「NGO職員の方々がそうした声にこたえてどのような活動をされているのか」を知り、また「人々に笑顔を届けるという自分の志に対して、自分の無力さ、自分に何が足りないのか」に気づくことができる、そんなフィールドワークにしたいと思っています。

そのために、現地の方々の生活のお手伝いをさせていただき、なるべく多くの時間を共有したり、NGOの方々の活動や想いについてヒアリングしたりしたいと思っています。また、現地の方々が「あいつらが来てくれてよかった、楽しかった」と少しでも感じてくれる、少しでも笑顔になってくれる、そんなワークショップを作りたいと思っています。

【最後に】

このフィールドワークが終わったとき、自分がいかに無力な人間か、しかしそれでも自分の志を果たすためにはいったい何が必要なのか、それに気づき、そのために愚直な努力をしていく覚悟を決めている状態になりたい、そうと思っています。自分の人生にとっての大きな兆しとなる、そんなフィールドワークにしていきます。